

特集



第3種委員会の取り組み



女子委員会の取り組み



旭川地区サッカー協会の取り組み



(一社)十勝地区サッカー協会の取り組み



苫小牧地区サッカー協会の取り組み



北海道専門学校サッカー連盟の取り組み



北海道シニアサッカー連盟の取り組み



【第3種委員会】

第3種年代のより良いサッカー環境構築を目指して



第3種委員会 委員長 大石橋 計幸

日頃より第3種委員会の事業にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

2025年度、北海道カブスリーグU15は第19回、同U13は第17回を数え、5ブロックカブスリーグも第17回または第18回が開催中です。15地区FAにおいても、毎週のように地区カブスリーグの熱戦が繰り広げられております。

コロナ禍を何とか乗り越え、リーグ戦文化が定着して間もなく節目の20年が経とうとしておりますが、他地域に先んじて、この広大な北海道での第3種年代トップリーグ＝北海道カブスリーグを根付かせた諸先輩に改めて敬意を表するところであります。

この場をお借りして、以下5点記します。

①北海道・ブロック・地区カブスという各リーグ戦において、2ndや3rdチームを編成して出場する場合、例えば累計出場時間上位10名のプロテクト選手とはならない11番目のFP選手が、1stチームの試合に僅か数分間でも交代出場した場合、同日または翌日に行われる2ndチームでの試合には一切出場できないという縛りを2024年度から撤廃しました。同日連日に行われる異なる2つのリーグ戦において、計1試合分の試合時間までであれば出場できることとした訳です。

従来通り選手のオーバーワークを防ぐ観点を大切にしつつ、クラブユース連盟加盟・中体連加盟の別を問わず、大所帯のチームにおいて、一部選手の出場時間が著しく短くなっていた状況を是正いたしました。

②昨今報じられています通り、部活動の「地域移行」ではなく、「地域展開」という表現を使うべしとのことですが、この時代の流れの中で、市町村や校長会が主導する「拠点校方式」によるチームが増加傾向にあります。在籍中学校にサッカー部がない生徒にも公式戦出場の機会を提供でき、勤務先の中学校にサッカー部がなくても、志のある教員の方々には拠点校チームの指導者となっていただける環境が整いつつあります。

少子化が急速に進み、教員の働き方改革も叫ばれる中、数年前までは考えられなかった、10校以上の中学校に在籍する選手からなる、そして、指導者が10数名という中体連加盟チームが誕生しています。

カップ戦・リーグ戦を問わず、ほぼすべての公式戦で、ベンチ入りできる指導者は5名まで、選手は20名（先発11名＋交代要員9名）まで、と開催要項に明記してきました。それに拠り、参加申込データの指導者欄は5名分としてきましたが、時代に合わなくなってきました。

また、遅きに失してしまいましたが、特にクラブユース連盟加盟のチームの中には、日常的に6名以上で指導されているチームも多く、その点ももっと早くから考慮すべきでありました。

2025年度シーズン開幕時に露呈した案件ですが、ひとまず、6名以上の指導者がいらっしゃるチームには、リーグ戦担当者に指導者追加のご連絡をいただいたところです。各リーグ戦において、シーズンを通して登録5名の指導者

だけがベンチ入りできるのではなく、登録された全指導者の中から、各節 5 名までベンチ入りできる、ということを明記した開催要項や参加申込データを整備し、2026 年度シーズン開幕までに周知徹底いたします。

なお、長期間で開催するリーグ戦以外の公式戦に関しては、従来通り指導者登録 5 名まで、とする予定です。

③この「地域展開」について、北海道内のまさに地域によって若干差異があると思われます。

札幌市立中学校に教員として勤務する者として、札幌市内の多くの中学校ではまだ単独 1 校で部活動が成立する、まだ何とか指導者のなり手もある、部員数がその競技に必要とする人数に満たない年度のみ近隣の中学校同士で「合同チーム」を編成すればよい、という考え方が大勢を占めている、と感じています。

「拠点校方式」が導入されていない札幌市ですが、まずは指導者不足解消のために、外部指導者登用の制度が整備されています。それに対して、学校規模が急速に小さくなっている地域では、部活動を存続させるために、待ったなしの取組を進めてくださっております。

行政規模による進捗状況の差を理解しつつ、現場の声を少しでも発信するべく、すでに創意工夫に溢れる実践を進めていらっしゃる皆さまから学ばせていただき、第3種委員会としても、積極的に情報収集をすすめ、情報交流を通じて前進してまいりたいと存じます。

なお、「拠点校方式」から、部活動を中学校から完全に切り離す「地域クラブ」へと、さらに舵を切ることがなかなか進まない理由のひとつは、教育公務員としての給与に加えて支給される土日祝日の部活動指導手当に代わる、指導者への手当の財源にあるものと思われます。

受益者負担というひと言で片付けることができない悩ましい問題です。「拠点校方式」でも、単独 1 校でのチームでも、部活動での 1 年間の活動費は、地域クラブが発足しますと、そのクラブ会費の月額に相当する程度で、家庭の経済的負担が増大すること必至、とよく耳にしますところ です。

すでに地域クラブがいくつか発足し始めているので、先駆的な実践から学ばせていただき、知恵を出し合い、第3種委員会がサッカーをやりたい中学生にその環境を提供することに汗をかいてまいりたいと存じます。

クラブユース連盟加盟チームを運営されている皆さまが長年積み重ねてこられたことにもヒントが数多くあると思いますので、チーム第3種として取り組んでまいります。

④この 2 年間ほど、MWO の積極的配置に取り組んでまいりました。第3種委員会、15 地区 FA 第3種委員長会議でも実践交流を進めております。

前述の地域展開同様、こちらも MWO を務めていただいた方への謝金や旅費等捻出のために、すべて大会参加料値上げで済ませてよいものか悩むところではあります。

年間を通じて、すべての公式戦で、が理想だと思いますが、第3種年代のリーグ戦では、JFA がフェアプレーデイズとして力を入れている 9 月に MWO 配置を特に推進しています。

特筆すべきは、旭川地区 FA の積極的な取組です。MWO を配置する試合を積極的に増やしたことで、指導者のベンチマナー向上のみならず、選手のモチベーションが向上し、応援マナーもより良いものへと進化している、という興味深いご報告もいただいております。

CWO の取組と合わせて、第3種委員会として、暴力暴言の根絶やマナー向上のみならず、リスペクト精神が溢れる現場を目指したいと存じます。

⑤北海道の夏は涼しい、とは言いづらい時代となりました。暑熱下におけるトレーニングやゲームの実施に関して、第3種委員会としてのガイドラインを作成して周知徹底しております。会場ごとに WBGT 計を準備し、その数値による判断基準を統一していますが、指導者の皆さまの、選手の健康面や安全管理に対する意識が年々高まっていることを肌で感じているところです。

サッカー競技のみならず、今夏の全中(全国中体連)における暑熱対策が大きく報道されたところですが、JFAも、2025 年度中に女子委員会、技術委員会の下に「ゲーム環境部会」を新設し、女子・U18・U15・U12 ごとに、ゲーム環境改善に取り組む、とのこと です。

他地域の好事例を学び、北海道地域のゲーム環境をより良いものにしていきたいと考えております。

プレイヤーズファーストの観点が欠落しないよう、中学生年代のより良いサッカー環境の構築に努めてまいります。

皆さま、引き続きよろしくお願い申し上げます。

【女子委員会】

女子委員会事業の「現状打破」



女子委員会 委員長 中川 綾子

2020 年度以来の約 5 年間で（公財）北海道サッカー協会女子委員会として行う事業は増加しています。今回、このように女子委員会に焦点を当てただけのページをいただいたので、この機会に 2020 年度以降増えた新しい事業について皆様にご紹介させていただきたいと思います。

(1)JFA U-15 女子サッカーリーグ北海道

2020 年度よりスタートしました。それまで U-15 年代の女子といえば、U-15 女子サッカー選手権以外は大人の女子選手と一緒に活動するか、中学生男子と一緒に 3 種中体連・クラブのチームに入って活動することが多かったのですが、U-15 年代女子チームが集まってリーグ戦を行うことになりました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて開始時期がずれるなど順調なスタートとは言えませんが、参加チームは少しずつ増加し、2025 年度現在では 11 チーム（1 部リーグ 6 チーム、2 部リーグ 5 チーム）が参加しています。少子化の影響もあり、合同チームが増えています。U-15 年代の女子選手がサッカーをする機会を充実させる大事な大会となっております。

(2)U-15 女子サッカー選手権・5 ブロック予選

前述の JFA U-15 女子サッカーリーグは高円宮妃杯 JFA U-15 女子サッカー選手権大会の北海道に当てられた 2 枠

の内の 1 代表が決まる大会ですが、もう 1 つの代表は U-15 女子サッカー選手権大会北海道大会で決まります。男子と違い、今まで北海道の女子大会では地区・ブロック予選を行う大会は無かったのですが、U-15 女子選手権の 5 ブロックの予選を行うことにしました。

ブロック内に所属する 2～4 チームでの予選ではありますが、予選を勝ち抜くという経験はこの大会でしかできないため、貴重な経験ができる大会となっております。

(3)道新カップ北海道女子 8 人制サッカー大会

この大会も新型コロナウイルス感染症の情勢で開始・実施を見送る年が続いたのですが、2022 年度から実施できるようになりました。2025 年度には第 4 回大会を迎えます。

各地区協会から 1 チームずつ、8 人制の大会に参加していただき、交流を深めてもらうことが目的となっております。中学生以上の女子選手が参加できる大会で、参加チームは少しずつ増えています。11 人制だと人数を集めるのが難しいというチームもあるため、より多くのチームを集めるために 8 人制で実施しております。いつか 15 地区全てから女子チームが参加してくれるような大会になればと考えております。



(4)大学女子選手権、大学女子フェスティバル

北海道女子サッカーの一番のチーム層の薄いカテゴリーが「大学生」のチームです。ここ 16 年ほど、大学女子選手権が 1 チームしかないため実施できませんでした。その状況に何か手を打てないかと考え、まず当時唯一の大学女子チームだった札幌大学女子サッカー部ヴィスタ主導で「大学女子フェスティバル」を企画し、8～9月の大学が夏休み期間に当たる時期に大学女子チームが数チーム集まってフェスティバルで試合を行いました。現在国民スポーツ大会の成年女子が隔年実施になったため、他地域では8～9月が予選時期に当たる場合もあるため、国民スポーツ大会がある年の実施は難しいのですが、可能な年には継続実施したいところです。

また、大学女子選手権は 2024 年度に文教大学が学連に登録し参加したことで 16 年ぶりの北海道予選を実施できました。そこには大学女子チーム創出制度の活用もあり、HKFA 女子委員会事業で取り組んだ地道な活動が実を結んだことにもなりました。大学女子選手権の継続及び新規チームの発掘が課題となるため、是非北海道内の大学に、「大学女子チーム創出制度」を活用していただきたいと思います。

(5)U-18 女子サッカーリーグ

U-15 女子サッカーリーグの開始や北海道女子サッカーリーグがセントラル方式から HOME & AWAY で実施するようになるなど、北海道の女子サッカーのリーグ戦に変革がもたらされる中、U-18 年代(高校、クラブ)でもリーグ戦を創出する流れが全国的にできました。北海道でもその流れに乗って 2022 年度より U-18 女子サッカーリーグを行うようになりましたが、もともと北海道女子サッカーリーグに参加する高校・クラブチームも多かったため、年代別リーグを単独で行うのには特に日程調整で労力を要する状況になっています。1 部、2 部の合計 11 チームで行うなど参加

チーム数が多い大会ですが、今後は参加チームのニーズや他の大会との兼ね合いを見ながらより良い形での実施を模索しているところです。

(6)JFA 女子サッカーデー北海道

JFA は、3月8日の「国際女性デー」に合わせ、この日を「女子サッカーデー」に定め、女性が生き生きと力を発揮できる社会づくりを推進していく活動を行っています。北海道でも、サッカーを通じて女性が輝くため、様々な取り組みを行っています。

2020 年度の「PASS TO THE FUTURE 北海道のフットボールを支える女性たち」という冊子作成を皮切りに、2021～2023 年度はオンライン又は集合型イベントを行いました。2024 年度には「女子サッカーデー北海道×北海道女子フットボールミーティング」ということで技術委員会の女子ユースダイレクターと連携し、「元なでしこジャパン・ドイツW杯優勝メンバー 山郷のぞみさんに学ぶ GK クリニック(実技)・講演会(ハイブリッド)」を行いました。2020 年度に作った冊子は第 2 弾も 2023 年度末に発行しております。

その他、今まで行っていた事業についても参加チームの増加が見られるものがあり、今後も「よりサッカーを楽しめる環境づくり」が求められているところだと思います。

今回タイトルにさせていただきましたが「現状打破」という言葉には、「現状に妥協せず、変化を求めて積極的に行動する」という意味があります。女子委員会の事業も今回紹介させていただいた事業以外にも形式の刷新(例:全道一括で「U-13 女子フェスティバル」を行っていたのを 5 ブロックに分かれて「ステップアップフェスティバル」と形式を変えてさらに広げていくなど)を図ろうと動いているところです。より良い形で女子委員会事業を行うことができるように努めてまいりますので、今後もみなさまのご理解、ご協力、よろしくお願いいたします。



【旭川地区】

旭川地区サッカー協会の現状と課題



旭川地区サッカー協会 理事長 対馬 紀一

2024年の旭川地区サッカー協会の出来事としては、特筆すべきものが4つあります。まず、旭川実業高等学校が全国高等学校総合体育大会(7/27~8/3 福島)に北海道予選会を3年連続で優勝して、8回目の出場を果たすとともに、全日本 U-18 フットサル選手権大会(8/1~4 静岡)や全日本ビーチサッカー大会(10/18~20 沖縄)に出場するなど、いままでのサッカーを越えた新たな道を示してくれた年となりました。



全国高等学校総合体育大会(7/27~8/3 福島)にて



全日本 U-18 フットサル選手権大会(8/1~4 静岡)にて



JFA 第20回全日本ビーチサッカー大会北海道代表決定戦7/20 室蘭にて

旭川工業高等専門学校が2011年以来の全国高等専門学校体育大会(9/14~18 函館)に出場を果たしました。続く、全道高等専門学校(U-19)サッカー新人大会でも2010年以来の優勝を勝ち取り、今後の活躍が期待されるようです。

個人では、菊地花奈選手が U-17 日本女子代表選手として AFC U-17 女子アジアカップインドネシア 2024・FIFA U-17 女子ワールドカップドミニカ共和国 2024 に出場されたほか、マイナビ仙台レディースのトップチームの試合に出場するなど、輝かしい実績を残し、旭川市新人奨励賞を受賞されました。今後の更なる活躍が期待されています。また、旭川実業高校出身の高橋健介氏がフットサル日本代表監督に就任いたしました。今後の活躍を期待しております。



菊地花奈選手、旭川市新人奨励賞を受賞

2024年度登録は、サッカー競技で団体 104 チーム、選手登録数 3,056 名と、昨年度に比べると 6 チームの減少ですが、選手は 56 名の増加となりました。具体的には、4 種少年団の 5 チーム減少が大きく、3 種中学生年代もチーム数の減少こそありませんでしたが、13 チームが合同チームの形で大会に参加しており、チームの再編成および、中学校の部活の動地域移行の動きなど、サッカーを楽しむための環境が変化しつつあることがうかがわれます。2024 年秋には、東川町で中学校部活動の地域クラブ化が実際にスタートしました。他の市町村でもその動きが続くものと思われます。高いレベルのサッカーを目指すことはもちろん、純粋にサッカーを楽しむことのできる環境を整えていくことも大切にしていきたいと考えています。

フットサル競技では、社会人を中心として、27 チームで活動していますが、会場確保も含め、より多くの人が競技を楽しめるよう環境を整えていくことを目指しています。

施設面では、「花咲球技場の改修」「東光スポーツ公園におけるアリーナの建設」、「花咲陸上競技場の改修」や「旭川市総合体育館の建て替え」などまだまだ解決しなければならないものが多く存在します。2024 年度は、そこに J リーグが 2026 年から 8 月開幕の「秋春制」に移行すること

を受け、J クラブの開幕前キャンプ(長期合宿)誘致活動が展開されました。実際にセレッソ大阪が東川町で夏季キャンプ開催することを発表し、東川町が天然芝ピッチを 2025 年 10 月末に完成させる方針を示しています。旭川市も含め、今後も合宿誘致に関連付けながら、上記課題の解決を目指していくことになります。

協会事業として、コロナ禍以降初めて納涼ビールパーティーおよびクリスマスパーティーをともに開催することができ、やっと平常に戻ったことを実感することができました。しかし、参加者が以前の 6 割にも満たない状況であり、さらなる工夫をして以前にも負けられないサッカーファミリーの交流の場として盛り上げていきたいと、決意を新たにしているところです。

10月の天然芝会場整備ボランティアには、カムイの杜公園および忠和公園両会場合わせて 873 名の参加を得ることができました。

9 月 14 日のリスペクトシンポジウムにおいて、旭川地区のリスペクト・フェアプレーに対する取り組みの紹介がされ、一定の評価を得られたことは、旭川地区サッカー協会としては大変心強いものであり、サッカーの活動における暴力根絶に向けて今後も努力していきたい。



リスペクト・フェアプレーデイズセレモニー 保護者による宣言



リスペクト・フェアプレーデイズセレモニー 宣言後、両チーム選手・審判団、リスペクト旗と共に

【十勝地区】

競技人口の拡大にむけて



一般社団法人十勝地区サッカー協会 専務理事 大橋 稔

平素より本協会の活動に際し格別のご高配を賜り御礼申し上げます。

昨今のサッカーをとりまく環境として、競技者数の減少があげられると思います。当地区でも、全カテゴリーにおいて登録チーム数と登録選手数の両方が減少傾向にあります。

十勝地区協会ではこの現状に歯止めをかけるべく、2025年度より競技人口の拡大につなげる、ファミリー拡大委員会を新設しました。

このことで、これまでもキッズ委員会の事業として実施していた、U-6年代からU-9年代までを対象としたサッカー教室や十勝管内幼稚園、保育園でのキッズ巡回指導の実施に加えて、親子で参加できるサッカーイベントや管内小学校での体育サッカー教室などの新規事業を実施することが出来るようになり、活動に広がりを見せています。

今後も各委員会に繋がりを持たせ、サッカー競技への「興味」と「継続」を促すためのアプローチを行っていく所存です。



ファミリー拡大学校巡回



1種室内サッカー大会

また、従来より実施していた「すきまサッカー」に関して、北海道サッカー協会に新たに部会を新設することが、先日の理事会で承認されました。これは、本協会が取り組んできたことが認められたことであり、今後とも道内各地区のF Aと連携しながら進めていきたいと思います。

今後とも、関係各位の皆様方と、競技人口拡大や競技力向上などに地区一丸となり努力していきたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。



4 種ジュニアサッカーフェスタ(合同開会式)



高校女子選手権

【苫小牧地区】

次世代に向けて



苫小牧地区サッカー協会 理事長 野田 篤志

昨年度、次世代に向けた協会づくりのスタートの年と位置づけ種々微力ながら取り組んでまいりましたが1年を振り返り成果と課題について報告させていただきます。

まず、大きな改革として全登録チームによる理事総会を廃止し協会組織のスリム化を図ったこと。これは各種別の自主運営の確立の達成が見られたことにより組織の意思決定及び運営のスピードアップを図るために実施いたしました。また新設した広報委員会の充実により長年使用してきたHPを刷新、協会事業状況をより分かりやすく閲覧できるようサッカーファミリー拡大を狙いながら各種SNSによる発信の内容及び数の充実を図ることができてきた。目に見える新しい取り組みの一つとして評価したい。

最重要課題のひとつである事業運営の財源の確保について25年度に向けパートナー事業部を新設、専任者を置きパートナーシップを結んでいただける企業の発掘を狙う。24年度はフットボールデーに2社、フットサルチャレンジデーに1社協賛をいただくことができたので今後その数を増やして行きたい。

もう一つの重要課題である女子の普及拡大については昨年新設した女性理事5名による普及事業部を中心に試行錯誤を繰り返しながら事業運営を行っているがまだ確固たる手ごたえを持つまでには至っていない。継続する中で

見えてくるものを獲得するためにも引き続き活動していきたい。そんな中4種年代の女子が熊谷高瀬杯に優勝し2年連続で琵琶湖カップに出場できたことは地区としても喜ばしいことである。これを受け4種委員会・技術委員会・女子委員会の3委員会の連携を図る作業に入ることができ25年度から4種女子の新しいプロジェクトをスタートさせた。また北海道の交通アクセス等の関係で苫小牧地区は北海道大会の主管地区となることも少なくない中で可能な限り環境整備された大会を目指しています。25年度も4種からシニアまで6大会の主管となっており地区としても全力で受け入れ態勢を整えていこうと考えております。

登録チーム・選手の減少や様々な社会環境の中まずもって地区協会の体質強化が大切であるとして昨年度から取り組んできましたが2年目を迎え、一番の課題はやはり人材の確保と育成であることが明確です。

改革の中、現在苫小牧地区は会長をはじめ30名の理事がおりますが約半数が45歳以下そのうち30代以下が5名と若手の起用に成功してきています。また女性理事登用増を図っていますが5名と現状維持となっています。

ある一定の狙いについては手応えを感じてきていますが持続可能であるかという、ある程度限られた同じ人材に偏った運営になっていることも事実です。

25年度はこの偏りの解消が必須と考えており、そのために更に多くの人材の確保が必要となります。

若手の素晴らしいアイデアもたくさん出てきていますが実行に移せていないことも多くあり、そういった意味でも幅広い人材が必要となります。

次世代につなげる協会づくりのために人材確保、育成こそが今の地区協会にとって最重要課題であることを掲げ一丸となって取り組む所存でございます。



★サッカーde 楽しまナイト★



チャレンジデー



4種・技術・女子プロジェクト「ハマナスガールズ」



フットボールデー

【北海道専門学校サッカー連盟】

これまでの歩みとこれから



北海道専門学校サッカー連盟 理事長 三谷 直人

北海道専門学校サッカー連盟は、1991年4月24日に全国専門学校サッカー連盟発足と同時に誕生しました。「サッカーを通じ、学生の心身の健全な発達、体力の向上及びスポーツ精神の高揚を図り、併せて専門学校教育の充実、親睦に寄与する」という目的でスタートしました。北海道の専門学校進学率が増加するなか、就職・資格取得を目指し、日々学業に励んでいる学生達のリフレッシュの場・交流の場を提供しようという目的でもありました。現在では各種大会運営に関わり、他の種別とも様々な面で協力しながら北海道のサッカー活動の発展に貢献できるよう取り組んでおります。しかし近年では少子化等の影響により専門学校への進学率も低下しており、選手・チーム数の減少が著しく見える形となってきたのが現状です。

新年度における連盟の活動は、4月の理事総会から始まり、春季の「第30回北海道専門学校サッカーリーグ」夏季には「第35回北海道専門学校サッカー選手権大会」さらに「北海道専門学校各種学校連合会フットサル大会」の3つの事業を中心に運営することとなります。

更に今年度、メインの大会となる「第35回全国専門学校サッカー選手権大会」(文部科学大臣杯 全国専門学校総合体育大会 10/6～10)が、宮城県松島町「松島フットボールセンター」で開催されることとなっております。過去北海道大会も第6回、第14回、第19回、第23回、第26

回、第30回(コロナ禍により中止)と5回開催されています。北海道代表チームは27回大会での準優勝が最高成績となっています。

2024年度に静岡県で開催された34回大会は、北海道スポーツ専門学校が北海道代表校として出場しました。昨年の1回戦敗退と悔しい思いをした道スポは、初戦関西地区代表京都医健専門学校に2-0で勝利します。2回戦は東北地区代表仙台大原簿記情報公務員専門学校。お互いに連戦で体力的にも厳しい状況の中90分のゲームを2-2で終わります。延長なしのPKでの決着は12-11。32回大会以来のセミファイナルへの進出を決めました。専門学校大会は日程の都合上ファイナルまでの4日間で4試合という過酷な全国大会となっています。さらに今大会、道スポは都合により大会参加メンバーが11名。他校は交代選手をフルに活用しながら戦ってきます。セミファイナルに進んだ選手たちの疲労はピークに達していました。セミファイナルの相手は、関西地区大阪府代表履正社スポーツ専門学校北大阪校。前半は0-0。疲労のピークに達していましたが、試合ごとに11人の選手たちの一体感が強まり、試合巧者の相手に耐えきりました。後半に2失点してファイナル進出とはなりませんでした。11人での3日間での3試合。会場の役員の先生たちからも称賛されるチームとなりました。翌日の3位決定戦で地元東海地区静岡県代表静

岡医療科学専門大学校に3-0で勝利し、27回大会以来のメダルが授与されました。

「北海道専門学校各種学校連合会フットサル大会」は札幌地区所属学校を中心に多くの学校が集まり、予選リーグ、決勝トーナメントを2日間にて北ガスアリーナ札幌26にて開催することができました。

最後になりますが、参加校、参加人数の減少という課題がありますが、北海道代表チームがファイナル進出・優勝を狙えるよう、春のリーグ戦から学生たちが切磋琢磨できる環境を連盟として準備していきたいと考えております。

今後も学生たちの笑顔を多くの方々と共有していける連盟としてチャレンジしてまいりたいと思います。



【北海道シニアサッカー連盟】

北海道シニアサッカー連盟の現状と今後の展望



北海道シニアサッカー連盟 理事長 佐藤 英隆

平素より北海道シニアサッカー連盟の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。長年にわたり北海道シニアサッカー連盟の発展に尽力されました松本敏嗣前会長が、2025年1月26日にご逝去されました。

松本前会長の功績と情熱に深く感謝し、謹んで報告いたします。また、松本前会長の遺志を継ぐとともに連盟の更なる発展を目指し、工藤彰一氏が新会長に就任したことを合わせて報告いたします。工藤新会長は、これまで副会長として連盟の運営に携わりシニアサッカーの普及と発展に多大な貢献をされてきました。新体制のもと、生涯スポーツとしてのシニアサッカーの魅力を更に広め、普及振興に尽力してまいります。引き続き、皆様の温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

私は2020年4月に北海道シニアサッカー連盟理事長に就任し、今期で3期目(6年目)を迎えました。理事長就任当初はコロナに翻弄された時期もありましたが、2024年度は全事業を予定通り実施することができました。特筆事項として、2024年6月に秋田県で開催されたJFA第18回全日本O-70サッカー大会でFC70室蘭が第3位という輝かしい成績を収めました。他カテゴリーもこれに続いて行ければと思います。

さて、北海道シニアサッカー連盟は2000年に発足し、2025年度で26年目を迎えますが、まだまだ歴史の浅い組織です。連盟は、新会長1名・副会長2名・理事長1名・副理事長5名のほか、14名の常任理事、14名の理事、会計監事2名、2022年から新設したEA(Executive Adviser:連盟運営や普及等に関するアドバイザー)2名の総勢41名で理事会を構成しています。連盟事業として、全国大会につながる真剣勝負の全道シニアO-40/O-50/O-60/O-

70 サッカー大会、サッカーを楽しむ親睦を深めることが目的の全道シニア8人制オープン大会、北海道シニア8ツア-オープン大会、北海道シニアオープン大会、全道シニアフットサルオープン大会の企画・運営など、競技志向ごとのプレー環境を創出しています。このほか、札幌・道央地区、道南地区、十勝地区、オホーツク地区、釧路地区、根室地区、道北地区で40・50部門のサッカー及びフットサルのリーグを開催しており、60/70以上の部門については、主に札幌・道央地区で女子シニアとも連携し夏と冬のリーグ戦を開催しています。

シニア種の登録状況は、2000年のシニア連盟発足時に11チーム・340名でスタートしたのち、年々増加の一途をたどり、2025年度には137チーム・2800名程度になる見込みで、今後も増加することが予想されます。少子高齢化・人口減少社会に直面しサッカーファミリーの減少も懸念されているなか、シニアカテゴリーは上記のとおり増加の一途をたどり、生涯スポーツとして位置付けられているサッカー界において、シニア世代の果たす役割は大きいと考えます。シニア部門のサッカー環境を充実させ持続可能な組織とする必要があり、以下の項目を当面の課題と捉えて2021年度から勉強会を行ってききましたが、2025年度からは問題点に対する解決策を具現化する取り組みを行っていきたいと思っています。

①10年後のシニア種のあり方、②シニアカテゴリーの普及(ミドル年代からの継続者のスムーズな移行、競技を一時中断した再開者や初心者が入りやすい環境及びニーズにあったサッカーをできる環境の創出)、③女子部門との連携、④審判スキルの向上及び資格保持者の増強、⑤道外地域との交流など

以下に、取り組みの一例を紹介します。

●全道 O80・女子シニアオープン大会【全道 O70 サッカーオープン大会と共催】の開催

現在 80 歳代の公式大会がないため、80 歳代の選手は 70 部門に登録して大会に参加していますが、70 歳代との体力差が大きいと、出場時間が限定的または出場機会が得られない可能性もある。このような状況ではサッカーから引退してしまうことが懸念されています。このため、80 歳代及びプレー機会の少ない 40 歳以上の女子シニア選手が、自分のカテゴリーでいつまでも楽しんでサッカーができる環境を確保することが、北海道シニア年代の活性化並びに北海道サッカー界の登録者増(継続)につながると考え大会を企画しました。

●親睦を目的とした大会の参加資格の緩和

現在シニア種の全大会の参加資格(選手)は、JFA 登録を義務付けていますが、シニア種で登録数を増加させるためには元々サッカーをやっていたが、仕事、家庭等の様々な理由でサッカーをやめている人を掘り起こし、サッカーを再開させることに軸足を置くべきと考えました。サッカー再開者を増やすための一手段として、全国大会に繋がらない親睦を目的とした大会の参加資格に(公財)日本サッカー協会未登録選手も 1 チーム 5 名までの参加を認めることとしたので、これを期にサッカーを再開するきっかけになればと思っています。また、同様の目的の企画として、高校サッカー部 OB 大会等も企画していきと考えております。

●シニア種の全大会の参加資格に健康状態に関する規定を追加

2024 年度のシニア種大会では、大事には至りませんでした。心配停止となる事案が数件発生しました。シニア種の大会では、各大会で極力 AED を設置するようにしていましたが、HKFA 医学委員会とシニア連盟理事(医事)からの助言を受け、血圧コントロールと健康調査票の提出を大会開催要項に記述することになりました。特に健康調査票は、救急車やドクターヘリによるスムーズな対応に繋がればと考えています。

【シニア種の大会開催要項に追記した健康に関する参加資格】

大会参加者及び関係者は、自己責任のもと自身の健康状態には特に留意し、必要に応じて事前に医師の診断を受けるなど、大会参加に支障のないことを確認すること。特に高血圧は突然死の原因である心疾患や脳血管疾患のリスクが高まることから、血圧が 180/110mmHg(家庭血圧 160/100mmHg)以上の場合は血圧をコントロールすること。また、参加チームは、参加選手の持病・内服薬・緊急連絡先などを記載した健康調査票を持参し、受付時に会場運営責任者の確認を受けた後、大会期間中はチームで管理すること。

北海道シニアサッカー連盟ホームページ:

<http://h-seniorsoccer.com/>



2024 年度 第 13 回全道 O-70 サッカーオープン大会
兼 JFA 第 19 回全日本 O-70 サッカー大会 北海道予選
優勝 FC70 室蘭



2024 年度 第 32 回全道 O-60 サッカー大会
兼 JFA 第 25 回全日本 O-60 サッカー大会 北海道予選
優勝 札幌 60CERI 烏(士別市天塩川サッカー場)



2024 年度 第 40 回 全道 O-50 サッカー大会
兼 JFA 第 24 回 全日本 O-50 サッカー大会 北海道予選
優勝 FCK アンフィニ 準優勝 Docon Jack 50、
(北見モイワスポーツワールド)



2024 年度 第 49 回 全道 O-40 サッカー大会
兼 JFA 第 12 回 全日本 O-40 サッカー大会 北海道予選
優勝 北海道オッサンドーレ札幌 40
(千歳市青葉公園サッカー場)

北海道サッカーファミリーへ 情報を発信中



北海道サッカー協会公式



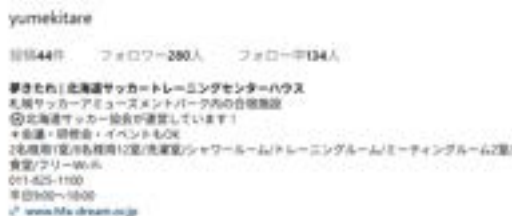
@HokkaidoFA

北海道サッカー協会 技術委員会



@HKFA_technical

北海道トレーニングセンターハウス 夢きたれ



@yumekitare